

令和元年度第1回呉市教科用図書（小学校）選定委員会 会議録

日時	令和元年6月25日（火）14:30～16:30		
場所	呉市役所2階 201・202会議室		
参加者	選定委員会	呉市小学校長会長	江口 修三（昭和南小）
		保護者代表	山本 浩司 脇原 園美
		学識経験者	吉長 成恭
		校長	小野 結実（原小） 玉理 一也（昭和西小） 高橋 智子（音戸小） 藤本 芳英（宮原小） 大塚 加奈（荘山田小） 森重 真由美（三坂地小） 金本 健司（倉橋小） 山根 久恵（豊小） 藤井 誠（広小） 枝長 真智子（吉浦小） 山田 幸治（川尻小）
	教育委員会事務局	教育部長	小川 聡
		学校教育課長	高橋 伸治
		学校安全課長	棚田 隆志
		学校教育課主幹	安部 ほずみ
		学校教育課主査	久保 由佳利
		学校安全課主査	森島 隆
		学校安全課主査	伊藤 賀世
		学校教育課主任指導主事	中村 友美
		学校教育課指導主事	浜本 愛子
傍聴者	森尾 敬介（教育委員） 船尾 慎（教育委員） 佐々木 元（教育委員） 小谷 眞喜子（教育委員）		
内容	1 令和2年度使用教科用図書（小学校）の採択の手順及び選定委員会の任務等について 2 議事 （1）委員長及び副委員長選出 （2）教科用図書（小学校）の調査・研究の観点等について		

委員長選出までの司会を中村主任指導主事が行うこととし、委員会は定刻に始まった。

◎ 呉市教育委員会小川教育部長の挨拶

- ・教科用図書の採択について
- ・教科用図書採択に係る誤記等と改善策・選定委員の役割について
- ・情報の公開について

1 令和2年度使用教科用図書（小学校）採択の手続き及び手順、選定に関する注意事項について、資料に基づき、中村主任指導主事が説明をした。

2 議事

（1）委員長及び副委員長選出

委員長及び副委員長の選出を行った。立候補者がなかったため、事務局が小学校長会長の江口校長を委員長に、保護者代表の山本さんを副委員長に推薦し、承認された。

（2）教科用図書（小学校）の調査・研究の観点等について

司会を委員長に交代し、教科用図書（小学校）の調査・研究の観点等についての議事に入った。

◎ 事務局の説明（5つの観点について）

安部主幹が、調査・研究委員会に示す各教科の観点について、「広島県教育委員会が定めた『平成32年度に義務教育諸学校で使用する教科用図書の採択基本方針について』」に準じて作成し、広島県教育委員会が示す5つの観点と同一のものとすると説明した。

◎ 5つの観点についての質疑・応答

なし

◎ 国語の説明（調査・研究の視点と方法について）

小野校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【国語】」に基づき、説明を行った。

◎ 国語についての質疑・応答・意見交流

・玉理校長

学習指導要領が改訂されたことで、新しく考えられた視点はありますか。

・小野校長

「基礎・基本の定着」の視点③「情報の扱い方に関する事項」を入れている。国語の学習指導要領改訂の特徴として、新たに「情報の扱い方に関する事項」が取り上げられている。従って、どの教科書において、どのように扱われているのかという具体を調査・研究していきたいと考え、追加している。

◎ 書写の説明（調査・研究の視点と方法について）

小野校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【書写】」に基づき、説明を行った。

◎ 書写についての質疑・応答・意見交流

なし

◎ 社会の説明（調査・研究の視点と方法について）

玉理校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【社会】」に基づき、説明を行った。

◎ 社会についての質疑・応答・意見交流

・江口校長

学習指導要領が改訂されたことで、新しく考えられた視点はありますか。

・玉理校長

社会の学習指導要領改訂の大きな特徴の一つに、自然災害に対する地方公共団体の取組の指導を重視するとある。「内容の構成・配列・分量」の視点⑥「現代的な諸課題の扱い」を新たに設け、方法として、第4学年及び第5学年で、自然災害についての扱いがどのようなものかを調査・研究する。

◎ 地図の説明（調査・研究の視点と方法について）

玉理校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【地図】」に基づき、説明を行った。

◎ 地図についての質疑・応答・意見交流

なし

◎ 算数の説明（調査・研究の視点と方法について）

高橋校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【算数】」に基づき、説明を行った。

◎ 算数についての質疑・応答・意見交流

・金本校長

「具体的な体験を伴う学習」とあるが、具体的にはどのようなものか。

・高橋校長

算数科において、プログラミングを体験しながら思考力を育成するといった活動がいくつかあ

るので、それも対象として調査・研究する。

◎ 理科の説明（調査・研究の視点と方法について）

藤本校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【理科】」に基づき、説明を行った。

◎ 理科についての質疑・応答・意見交流

・玉理校長

学習指導要領が改訂されたことで、新しく考えられた視点はあるか。

・藤本校長

大きく2点ある。視点⑦「様々な教育との関係」の方法として「防災・減災に関する内容の扱い」として、水害、地震、天気といったものの扱いについて、それから、理科も、「プログラミング教育」の扱いが入っているため、それについても調査・研究する。

「基礎・基本の定着」の視点②「知識や概念の定着を図り、理解を深めるための工夫」とある。視点は同じだが、「日常生活や社会との関連付けを図る内容」がかなり取り上げられているので、方法として入れている。

◎ 生活の説明（調査・研究の視点と方法について）

大塚校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【生活】」に基づき、説明を行った。

◎ 生活についての質疑・応答・意見交流

なし

◎ 音楽の説明（調査・研究の視点と方法について）

森重校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【音楽】」に基づき、説明を行った。

◎ 音楽についての質疑・応答・意見交流

・小野校長

視点⑧の方法「音楽を形づくっている要素の示し方と具体例」とあるが、具体的にどのようなものがあるのか。いくつか例を挙げてほしい。

・森重校長

音楽科では、〔共通事項〕を、表現や鑑賞の全ての活動において、共通に指導する内容として設定されている。例えば、音色、リズム、速度が示されている。

・枝長校長

視点⑤「音や音楽を生活や文化などと関連付ける工夫」について、説明の中で、地域に伝わる音楽とあったが、それは具体的に先生方が見付けやすいような工夫があるか。

・森重校長

地域に伝わる音楽というのは、例えば、地域の祭りなどである。身近なところでは、子供たちが耳にする音を意識して聴くことがとても大事であると思っている。

◎ 図画工作の説明（調査・研究の視点と方法について）

金本校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【図画工作】」に基づき、説明を行った。

◎ 図画工作についての質疑・応答・意見交流

・小野校長

視点②「〔共通事項〕を視点とした学び方の示し方」とあるが、図画工作科において〔共通事項〕はどのようなものか。

・金本校長

例えば、色の名称とか混色した場合の特徴や道具の扱いに関する名称など、知識・技能の基になるものが〔共通事項〕として示されている。

◎ 家庭の説明（調査・研究の視点と方法について）

山根校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【家庭】」に基づき、説明を行った。

◎ 家庭についての質疑・応答・意見交流

・山田校長

今回の学習指導要領改訂で、カリキュラム・マネジメントの視点が全てに取り入れられている中で、視点⑧「各教科等と関連させて学習を進める工夫」はとても良い観点だと思った。家庭科は各教科等との関わりが深いですが、教科書にも具体例が書かれているか。

・山根校長

今までないところでいうと、災害とか、縫い物をしたときに、これは災害のときに役立つとか、各教科だったら、コンロだったら理科のこういうところにつながるとか、算数につながるとか、多岐にわたって前よりも書かれている。実生活のより体験的なものになっていることから、調理実習のときなど、「教科書を使って」ということも大切にしていきたいと思う。

◎ 保健の説明（調査・研究の視点と方法について）

藤井校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【保健】」に基づき、説明を行った。

◎ 保健についての質疑・応答・意見交流

・山田校長

体育科の目標にもある、「生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力」を育成するという中で、例えば、視点⑦の「発展的な学習に関する内容の記述」、学んだことをさらに自分の生活に生かしていくとか、そのような視点は、今回の教科書に取り入れられているか。

・藤井校長

色々な表し方があるが、取り入れられている。

・山根校長

視点⑤「健康についての自己の課題を見付け」とあるが、具体的にはどのようなことか。

・藤井校長

発展の中に、今、さかんに言われているがん教育を取り入れたりしているものもある。

・高橋校長

視点④の方法「単元ごとの導入方法、まとめや振り返りの工夫」だが、実際に調査・研究を行うとき、具体的に何を調査するのか。

・藤井校長

導入は問いの言葉になるが、その問いが子供にとって身近なものになっているか。そして、まとめや振り返りも、生涯にわたってということがあるので、これから先も活用できるものになっているかという点を見ていきたい。

・高橋校長

記載されている文言を見ていくということか。

・藤井校長

はい。

◎ 英語の説明（調査・研究の視点と方法について）

枝長校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【英語】」に基づき、説明を行った。

◎ 英語についての質疑・応答・意見交流

・小野校長

先程説明があったように、4技能5領域になって、「話すこと」に「やりとり」が加わっている。ICTの活用が大切になってくると思うが、観点との対応を教えてください。

・枝長校長

「やりとり」である会話で、日本人の担任だけでなく、ネイティブの発音が重要になってくる。英会話、音声、映像を、デジタルコンテンツを活用していくことが非常に重要になってくる。そういうものや、QRコードで活用できるものもあるので、研究・調査していく。

- ・金本校長

視点⑥の方法の中に「言語活動の設定及び具体例」、視点⑩の方法の中に「言語活動の内容」とあるが、この違いを教えてください。

- ・枝長校長

視点⑥は、習得した知識・技能の活用ということである。習得した中で、いかにそれを効果的に活用できる学習内容になっているかである。視点⑩は、自分たちの考えや気持ちなどを伝えるという目的意識、主体性を高めるために、例えば、小学校の思い出を扱った単元であるとか、考えや気持ちを伝えるためにより効果的な言語活動になっているかどうかである。

上は、4技能のそれをいかに効果的に活用していくか、下は、自分の考えや気持ちを主体的に伝える、主体的な学びを促すような言語活動になっているかを調査・研究する。

- ・山田校長

今回、英語の初めての教科書だが、どの視点で調査・研究をしていくかをきちんと示していただいている。視点⑧「巻末資料、付録等の工夫」は、何か付録的なものが付くなど子供たちの興味・関心を惹きつけるもの、例えば、アルファベットが分かるなどの工夫があるのか。

- ・枝長校長

アルファベットカード、単語リストというような絵カード・文字で視覚的に単語を捉えるようになってきている。英語、文法を覚える、暗記するのではなく、慣れ親しむように3、4年生の外国語活動で指導しているが、高学年でも無理なく段階的、系統的に身に付くように、効果的なツールが巻末にあるか、学んだことが示されていて、振り返ることができるものがあるか、中学校につながるものがあるかを調査・研究する。

◎ 道徳の説明（調査・研究の視点と方法について）

山田校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【道徳】」に基づき、説明を行った。

◎ 道徳についての質疑・応答・意見交流

- ・小野校長

視点③「問題解決的な学習を取り入れた工夫」となっているが、今、「課題解決的な学習」と言われている中で、あえて「問題解決的な学習」となっている意図があるか。

- ・山田校長

学習指導要領の改訂で、道徳科の指導方法について、何か問題場面等があったときに、具体的にどのように解決していくかということも大事にして学習していく必要があると、「問題解決的な学習」という言葉を使って示されている。

- ・金本校長

視点⑥「現代的な課題等」という文言がある。いじめ問題は各学年にあると思うが、その他に現代的な課題として示されているものはあるか。

- ・山田校長

例えば、情報モラルの問題とか、環境に関する問題とか、様々な問題が教材の中に含まれている。ただ、道徳科の教科化の一番の基になったのは、いじめの問題が端を発しているので、全ての発行者でいじめが確実に扱われている。それを調査・研究していく。

- ・森重校長

昨年度のものを見ると、二つ目の観点「主体的に学習に取り組む工夫」で自己の生き方につなげていくというものがあったが、今回は反映されているか。

- ・山田校長

発問には、自己の生き方につなげていくことが含まれているものが多くある。今回は、視点②「発問の工夫」で、自己の生き方につなげていくことを含めて調査・研究する。

◎ その他

- ・金本校長

図画工作において、修正していただきたい点がある。9ページ、観点「内容の表現・表記」の視点⑧「作品等についての示し方の仕方」となっているが、「仕方」を「工夫」に修正してほしい。

◎ 全体を通して

・ 江口校長

小学校教科用図書の調査・研究の観点等について、図画工作は、観点「内容の表現・表記」の視点⑧「作品等についての示し方の仕方」を「作品等についての示し方の工夫」に修正する。その他の種目は原案通り調査・研究委員会へ示すということによいか。（承認を得る。）

・ 吉長教授

調査・研究の観点、視点、方法の説明を受け、大変感銘を受けた。

私から、期待をすべきこととして2点お話しする。これから、調査・研究では、膨大な資料を綿密に見ていくが、選定・判断するに当たり、分かりやすい報告書にしてほしい。

また、各教科用図書に、災害、減災に関するものや、コミュニケーションに関するものなど共通するものがある。理科では「様々な教育との関係」、家庭科では「他教科と関連する内容」とあるように、横の関連も、コミュニケーションをとっていただいて、子供たちのために役立つものになるよう選定してほしい。

もう1点、ページ数とか定量的にはかかれる方法論があるが、数が多ければ良いものではない。

「工夫」と「定量化できるもの」とのかね合いをしっかりと検討してほしい。

・ 山本保護者代表

I C Tに関して、タブレットなどの勉強方法もある。そのような副教材のようなものについても見てほしい。

・ 脇原保護者代表

各教科の横のつながりが大切だと思う。それを利用して、考えが広がることもある。一つの教科に限らず、横とのつながりの中で学習できるようにしてほしい。

◎ 閉会

中村主任指導主事が次回の予定等について確認して、会を終了した。

令和元年度第2回呉市教科用図書（小学校）選定委員会 会議録

日時	令和元年8月9日（金）14:00～16:30		
場所	呉市役所7階 755～758会議室		
参加者	選定委員会	呉市小学校長会長	江口 修三（昭和南小）
		保護者代表	山本 浩司 脇原 園美
		学識経験者	吉長 成恭
		校長	小野 結実（原小） 玉理 一也（昭和西小） 高橋 智子（音戸小） 藤本 芳英（宮原小） 大塚 加奈（荘山田小） 森重 真由美（三坂地小） 金本 健司（倉橋小） 山根 久恵（豊小） 藤井 誠（広小） 枝長 真智子（吉浦小） 山田 幸治（川尻小）
	教育委員会事務局	学校教育課長	高橋 伸治
		学校安全課長	棚田 隆志
		学校教育課主幹	安部 ほずみ
		学校教育課主査	久保 由佳利
		学校安全課主査	森島 隆
		学校安全課主査	伊藤 賀世
		学校教育課主任指導主事	中村 友美
		学校教育課指導主事	大段 美香
傍聴者	森尾 敬介（教育委員） 船尾 慎（教育委員） 佐々木 元（教育委員）		
内容	1 第1回選定委員会の協議結果についての確認 2 調査・研究委員会についての報告 3 議事 ・総合所見の案について		

◎ 開会

中村主任指導主事が会を始めた。

1 第1回選定委員会の協議結果についての確認（進行：選定委員長 江口校長）

・安部主幹

まず、第1回の選定委員会の協議結果について確認する。協議内容は、委員長及び副委員長選出と教科用図書の調査・研究の観点等についての2点であった。

1点目について、委員長には、江口校長が、副委員長には保護者代表の山本さんが選出され、決定した。

2点目の教科用図書の調査・研究の観点等について。調査・研究委員会に示す観点について「広島県教育委員会が示す5つの観点と同一のものとする」と提案し、議決された。

調査・研究の視点及び方法について、いろいろな質問や意見が出され、「原案通り調査・研究委員会に示す」ということで議決された。

また、7月1日（月）に開催した第1回調査・研究委員会において、この観点、視点、方法及び第1回の選定委員会で皆が協議した内容は、各選定委員の校長から、委員の先生方に説明された。

◎ 協議結果についての質疑・応答

特になし

2 調査・研究委員会についての報告（進行：選定委員長 江口校長）

・安部主幹

まず、本選定委員会が調査・研究を依頼している調査・研究委員会について報告する。「令和元年度第2回呉市教科用図書（小学校）選定委員会—資料—」2ページの資料2「令和2年度使用教科用図書（小学校）の採択手続について」の「3 日程」。5月から8月のところにあるように、これまでに、調査・研究委員会を3回開催した。

第1回の調査・研究委員会は、7月1日（月）に開催した。

はじめに、教科用図書の採択の手順及び調査・研究委員会の任務等の説明を行った。その後、各部会で、各選定委員の校長が、選定委員会で決定した観点等について説明した。そして、報告書を作成するための調査・研究の進め方を説明し、役割分担を行った。

第2回の調査・研究委員会は、7月9日（火）に開催した。第2回では、各委員が役割分担した箇所を調査・研究した内容について全体に報告し、協議した上で、加筆・修正する作業を行った。

第3回の調査・研究委員会は、理科以外の種目は、予定通り7月30日（火）に開催した。理科については、部会代表から申し出があり、日時を変更して7月26日（金）に開催した。第3回では、第2回以降各担当者が加筆・修正した箇所について全体で協議して修正を加え、視点ごとに主担当と副担当で誤字、脱字のチェックを行い、作業を完了した。

その後、7月31日（水）、選定委員長江口校長に報告書が提出された。その報告書をもとに、選定委員会各部会代表の校長が作成したものが「総合所見（案）」である。この後、各部会代表の校長が提案する。

◎ 報告についての質疑・応答

特になし

3 議事（進行：選定委員長 江口校長）

・総合所見の案について

◎ 各自で資料を読んだ。（14時23分まで）

◎ 国語の説明

小野校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 国語についての質疑・応答・意見交流

・山田校長

今の総合所見の説明によると、東書によい特徴が多いということか。

・小野校長

はい。東書によい特徴が多いと考える。

◎ 書写の説明

小野校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 書写についての質疑・応答・意見交流

・江口校長

基本単元の間というのはどういうことか、教科書を基に具体的に教えてほしい。

・小野校長

基本単元というのは、例えば東書6年p22の「字形の整え方」といって字を整えるためにはどのようにして書いたらいいかという書き方についての学習が示されている。このような基本的な書き方についての単元を基本単元という。次のp24を御覧いただくと、「生活に広げよう」といってこれまで学習した内容を生活の中で生かすとしたら、どのようなものがあるか示されている。このように単元の間生活に生かすような活動の例が入っているのは、東書、教出、光村である。単元の間に入っていることで、実生活や他教科に生かしたり、言語活動をする際に参考にしたりしやすいと考える。

◎ 社会の説明

玉理校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 社会についての質疑・応答・意見交流

・江口校長

呉市を取り扱っているものはあるのか。

・玉理校長

資料として写真が取り扱われているものはある。東書6年歴史編のp33に倉橋にある復元された遣唐使船の写真が掲載されている。日文6年p143に下蒲刈の朝鮮通信使に提供した料理の写真が掲載されている。

◎ 地図の説明

玉理校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 地図についての質疑・応答・意見交流

特になし

◎ 算数の説明

高橋校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 算数についての質疑・応答・意見交流

・江口校長

啓林館は、問題解決の過程の思考の流れに沿っているというのはどのような特徴があるのか教えてほしい。

・高橋校長

啓林館の5年生p128「図形の面積」の単元を例に説明する。他の5者は、平行四辺形から三角形の面積を求めるような流れになっている。啓林館だけは直角三角形の面積の求め方から三角形の面積の求め方を考え、そして平行四辺形の面積を求めるような流れになっている。児童に馴染みのある長方形の半分である直角三角形の求め方から学習が進む。今まで習ったことを生かして思考できるため、児童にとって学習しやすいと考える。

・江口校長

二次元コードが370個ほどあるというのは、どういうことか。

・高橋校長

他者は表紙や目次などにURLや二次元コードが示されている。啓林館はどの学年でも、単元の中で問題等の横に二次元コードが示されている。スマートフォンやタブレットなどでかざすと関連した問題や動画を見ることができる。児童が家庭学習で活用することもできると考える。

・玉理校長

中学校へつながる内容といった部分を、もう少し具体的に説明していただきたい。

・高橋校長

各者、中学校へつながるといった表記があり、巻末や別冊等で、中学校ではこのような学習をするといった具体的な内容も紹介している。啓林館は中学校だけでなく、高等学校につながっていることも示されている。啓林館6年p234「ひろがる算数」では、いろいろな職業につながっていることも紹介されている。児童にとって算数や数学がどのように生活とつながっているのか、自分の将来を考える上で算数が必要だと興味をもてると考える。

・小野校長

観点2の中に、プログラミングについて記載されているが、適切な学年があるのか説明していただきたい。

・高橋校長

低学年でいうと、例えば、大日本1年p168「ゴールをめざそう」ですごろくのような形でカードを用いて右や前など考えさせていく。高学年になると多角形の学習で、コンピュータを用いてまっすぐ進む、何度曲がるといったように考えさせながら作図させる。どの学年が適してい

るというのではないが、大日本や学図は低学年から取り組ませている。低学年は、プログラミングというより、プログラミング的思考ということである。

◎ 理科の説明

藤本校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 理科についての質疑・応答・意見交流

・江口校長

啓林館の「まとめノート」の部分について、もう少し具体的に説明してほしい。

・藤本校長

啓林館5年p25に「ふり返ろうまとめノート」というのがある。どの学年も単元末に例が示されている。児童にとって単元全体をまとめる際の参考になる。このように「まとめノート」として記載されているのは、啓林館だけである。

・江口校長

問題解決の過程について、もう少し具体的に説明してほしい。

・藤本校長

啓林館5年p7「花のつくり」を例に説明する。児童のつぶやき等から学習が始まっていく。啓林館は、単元の最初に単元を通してのめあてが示されている。p12を御覧いただくと、「問題をつかもう」、「問題」、「計画」、「実験」、「結果」、「まとめ」といったような問題解決の過程が矢印で結ばれたり四角で囲まれたりしており、児童が問題解決をしていく上で分かりやすいと考える。

◎ 生活の説明

大塚校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 生活についての質疑・応答・意見交流

・玉理校長

教科書の大きさについて、調査・研究の中で話題になったのか教えていただきたい。

・大塚校長

直接、教科書の大きさについては出ていない。東書について、写真が大きくて児童の表情や様子などがよく分かるという特徴はある。

・江口校長

いろいろな表現方法とはどういうことか、具体的に説明してほしい。

・大塚校長

東書上p33栽培単元で、友達に紹介するだけでなく家の人にも伝えたり、東書上p78「いっしょにあそぼう」で幼児に対して伝える方法を考えたりしている。東書下p89で町の人を招待して調べたことを紹介したり、東書下p128で情報機器の扱い方について取り上げたりしている。また、各者とも、家庭とのつながりと大切にするために、「保護者の皆様へ」といった記載もある。

・校長校長

観点3でスタートカリキュラムについて書かれている。教出は、「幼児期の学び」といった表現がされているが、啓林館や東書の「幼児教育」と何か違いがあるのか。

・大塚校長

大きな違いはないので、啓林館も東書も教出と同じように、「幼児期の学び」に表現を統一していきたい。

◎ 休憩（10分間）

◎ 音楽の説明

森重校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 音楽についての質疑・応答・意見交流

・小野校長

観点2の教芸の系統的な指導を積み上げる構成について、もう少し具体的に説明していただきたい。

・森重校長

音楽づくりの学習である。教芸3年p57では、リズムづくりの学習を行っている。教芸6年p22では、リズムに声を重ねてボイスアンサンブルの学習を行っている。教芸6年p32では、和音の中の音を使って旋律をつくるといった学習を行っている。音楽の要素を使いながら学習を進めるような内容になっている。教出6年p46では、いろいろなパートを重ねていく学習を行っている。教出6年p34では、循環コードをもとにアドリブで遊ぶといった学習が行われている。教芸は、段階を経ながら学習できるという点に特徴があると考えられる。

◎ 図画工作の説明

金本校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 図画工作についての質疑・応答・意見交流

・江口校長

他教科との関連について、もう少し具体的に説明していただきたい。

・金本校長

開隆堂3・4年上p5もくじに「あわせて学ぼう 他教科の内ようにかかわることです。」と記述されている。p15には国語と関連のある単元、p25には理科との関連のある単元と示されているなど、これらは開隆堂の特徴と考える。

◎ 家庭の説明

山根校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 家庭についての質疑・応答・意見交流

・江口校長

どこか特徴的な部分について、教科書で具体的に説明していただきたい。

・山根校長

開隆堂p4、東書p4を御覧いただきたい。開隆堂は「見つける・気づく」「わかる・できる」「生かす・深める」、東書は「見つめよう」「計画しよう・実践しよう」「生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」と学習の過程が示されている。開隆堂、東書ともにp1、2には、5年生と6年生の学習内容について書かれている。例えば、東書は6年生で「夏をすずしくさわやかに」「冬を明るく暖かく」といった学習を行う。開隆堂は、5年生で「暖かく快適に過ごす着方」「暖かく快適に過ごす住まい方」を学習し、その後6年生で「すずしく快適に過ごす住まい方」「すずしく快適に過ごす着方と手入れ」といった学習を行う。開隆堂は、児童がつまずきやすいところをスモールステップで学習できる点に特徴がある。

◎ 保健の説明

藤井校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 保健についての質疑・応答・意見交流

特になし

◎ 英語の説明

枝長校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 英語についての質疑・応答・意見交流

特になし

◎ 道徳の説明

山田校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 道徳についての質疑・応答・意見交流

・小野校長

東書に、中心発問が掲載されているということであったが、低学年も中心発問はあるのか、教えていただきたい。

・山田校長

東書は低学年については、中心発問は掲載されておらず、3年生以上に掲載されている。学図は、別冊ノートに発問が掲載されている。別冊が付いている教科書会社は、別冊に発問が掲載されている。

・江口校長

地元呉市の題材は掲載されているのか教えていただきたい。

・山田校長

広島県の題材は取り上げられている。呉市については直接取り上げられていないが、呉市は「呉の自作資料」を年間計画に盛り込むようにしている。

・江口校長

各者中心発問が掲載されている学年に違いがあるようだが、「総合所見（案）」について加筆・修正はあるか。

・山田校長

「総合所見（案）」の加筆・修正をお願いしたい。観点1の中心発問の部分について学年を明記していきたい。観点3の光村のいじめ問題を扱うといった部分の「復習」を「複数」に修正していただきたい。

◎ 全体を通して

・吉長教授

総合的な所見を拝読して、真摯な検討をしていただき御礼を申し上げる。英語教育を行う中で、ディスレクシアといった失読症や難読症が明瞭になる場合がある。そのような子供に気付いた時には、特別支援教育の視点にたつて早い段階で教育環境を整えていただきたい。

・山本保護者代表

これだけの膨大な資料をまとめていただき、頭が下がる思いである。子供たちが主体的に学習を進めることができるか、学習意欲を高めることができるかといった視点でよりよい教科書を選定されていることがよく分かった。今後も、小学校と中学校の連携が取れるような、ステップアップできる教科書の選定をしていただきたい。

・脇原保護者代表

丁寧な検討していただきありがたい。1つの教科だけにとどまらず、いろいろな教科と連携しながら、全体で勉強を行えるように教科書を選定されていることが分かった。6年生にいたっては、中学校の学習へのつながり、小中つながりの流れがすばらしいと感じた。

◎ 総合所見の案を基に、教育長に報告することについて確認

・江口校長

それでは、小学校教科用図書の総合所見について、次の3点を加筆・修正して、教育長に報告する。

生活の観点3のスタートカリキュラム以降の表現を統一する。

道徳の観点1の中心発問の部分について学年を明記する。

道徳の観点3の光村のいじめ問題を扱うといった部分の復習を複数に修正する。

よろしければ、拍手をお願いする。

教育長に報告することについて、承認を得る。

◎ 閉会

中村主任指導主事が会を終了した。